

# 日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

2017年10月31日 ニュースレター No. 11

連絡先：大阪市生野区桃谷4-6-17  
E-mail : info@ianfu-kansai-net.org  
HP : www.ianfu-kansai-net.org  
blog : ianfukansai.blog.fc2.com  
振込口座：00980-3-209232  
口座名義：日本軍「慰安婦」問題  
・関西ネットワーク

## 安倍政権の恥ずべき歴史の隠ぺいを許さない！

今回の選挙の結果、安倍政権は憲法改悪を発議すると言われています。日本会議が主導する集会が早速開かれ、「天の声を得た」と宣言しています。基本的人権より「公益及び公の秩序」を優先し、「戦争をする国」の実現をめざす道を、私たちは絶対に許すわけにはいきません。

この間、安倍首相は絶対多数を背景に、国会で答弁にならない答弁や開き直りという無責任、不誠実な態度を繰り返し、採決を強行し、明らかに憲法違反と指摘される法案さえ強引に通してきました。国会周辺には、それに抗議する市民が連日集まって声をあげ続けていたにもかかわらずです。すでに数の力の暴力による「独裁」が始まっています。このことこそが、今回の選挙で問われなければならなかつたことです。

それなのに、あの混乱ぶりを呈した野党の責任は大きいものがあります。一つでも多くの議席を取って安倍政権を打倒するためにと、次の選挙に向け結成されたいた各地の市民連合が力を発揮し、野党統一候補で闘う状況を創り出したのは大きな希望でした。元SEALDsの若者たちも、SNSを有効に活用して選挙戦を有利に導いたと言われています。草の根の市民の着実な努力と力の結集が実を結んだ選挙戦でもありました。今後、この実をさらに大きくしていくかどうか、私たち一人ひとりにかかります。私たちはこれからも力を合わせ、「安倍政治を許さない！」と抗議の声をあげ、行動を続けていきましょう。

安倍政権は「慰安婦」問題について、「強制連行を確

認できる資料はない」「朝日新聞による誤報が国際的な誤解を招いた」「性奴隸ではない」「サンフランシスコ条約や二国間条約等によって解決済み」等と、加害者意識に欠ける、無責任な態度をとり続けています。

ちょうどユネスコでは、8カ国の市民団体や大英帝国戦争博物館からの申請である「日本軍『慰安婦』の声」の世界記憶遺産への登録審査が行われていますが、日本政府はこれを阻止するために、昨年に引き続き今年も分担金拠出を見合わせるという方法で圧力をかけています。

現在、分担金が一番大きい国は日本であり、これはだれの目にも恥ずべき行為です。さらに日本政府は、当事者間で意見が異なる場合はまとまるまで審査を保留するように、ユネスコの審査制度の変更を働きかけていました。その結果、今月18日に、来年以降の申請から適用することが決定されました。手段を選ばない日本政府に対しては、国際社会からもっともっと非難の声



があがるべきです。10月27日、ユネスコは今回「日本軍『慰安婦』の声」の登録の判断を見送るという残念な情報が流れました。お金に物言わせる、歴史修正主義の日本政府の圧力に屈したのであれば、非常に大きな問題です。

「二度と繰り返さないように記憶に留めてほしい」というのは「慰安婦」被害者たちの切なる願いです。日本政府は、被害者たちをまた踏みにじったのです。私たちは安倍政権を許さず、彼女たちの声を記憶し、次の世代に継承しながら、これからもこの問題の解決に向けた運動を進めていきましょう。

**集会報告****第5回 8.14日本軍「慰安婦」メモリアル・デーin大阪**

# 「語り始めた被害者たち」

**8/12****日本軍「慰安婦」、AV出演強要、JKビジネス**

第5回 8.14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デー in 大阪は、北原みのりさん、尹美香さんをゲストにお迎えしました。

性と人権、ジェンダーに関わる多くの著書がある北原さんは、「慰安婦」問題にも关心を寄せられていて、「日本軍『慰安婦』問題、JKビジネス、AV出演強要の3つが並べて語られることはかつてなく、意義がある。そこに共通するのは、長い間の沈黙があり、被害当事者が声を挙げることによって社会が動いた、また動こうとしていることだ」と話を始められました。

「AV出演強要」問題は、AV出演を拒否した女性がプロダクションから損害賠償を求める裁判を起こされ、女性側が勝訴したことで話題になった。女性はグラビアやAVに出演強要され、断ると「あと9本出る契約。1000万円出せ」と言われ、PAPS(ポルノ被害と性暴力を考える会)に助けを求めた。AV被害は、当事者が被害を認識することが困難。訴えることで自分がAVに関わったことを知られる怖さや、相談先が見つけにくいこと等で、可視化されにくい。PAPSが支援体制を整え、HPで「あなたは一人ではない」と呼びかけたことが、AV被害を訴え出る大きなうねりとなった。これは「慰安婦」問題の始まりと同じ。金学順さんの「神様が私をこれまで生かしてくれたのは、これに対して闇えという意味だったのだと思う」という言葉は、どれほど多くの人を動かしかけている。

「JK」とは女子高校生のこと、もともと買春する男性の隠語だった。散歩や添い寝というサービスを少女たちにさせるのが「JKビジネス」で、大人が欲望のまま

に少女の性を搾取する行為だ。それを少女たちが遊ぶ金欲しさにしているように報道され、彼女たちが偏見にさらされてきた。昨年、10代の当事者たちが体験を文章にした「私たちは買われた」展を企画した。女の子の一人は、ヤンバニングの「慰安婦」写真展を見て「私と同じだ」と言った。現代を生きる少女が、70年前の「慰安婦」と自分を重ねている国だ。買った側の責任は問われることなく、強制かどうか、どれだけ抵抗したか等、被害者が厳しく問われる状況は今も続いている。

続いて、尹美香さんが話されました。

北原さんの話を聴いて、心が締め付けられた。女の子に生まれたために自らの人権を守れないという構造に置かれている。これは私たちの責任ではないか。金学順さんが残してくれた言葉で、「韓国の女性たち、しっかりしなさい。しっかりしないと、私たちの子どもたちがまた同じような被害に遭うわよ」というのがある。その警告が、今現実に起きているという思いだ。

金学順さんの勇気ある発言は、ある日偶然に生まれたものではない。現代女性たちの人権蹂躪に心を傷めた人たちが「慰安婦」問題に関心を持ち、挺対協を作り、そこに被害者が訪ねてくるという過程があった。それは北原さんの話と同じだし、それこそがメモリアル・デーの意義だと思う。

金学順さんやそれに続く女性たちの勇気ある証言は、韓国の地域社会を変えてきた。最初は家父長制社会の中で、彼女たちを「民族の恥」と言う偏見があつたが、被害女性たちがあきらめず、声を上げ続けたおかげで、韓国社会が変わっていった。女性たちは平和活動家として、



運動の主体となり、尊厳を取り戻し、名誉回復を自らの力で行ってきた。

一方で、当事者を無視した「日韓合意」は女性たちを苦しめたが、女性たちがいちばん好きな言葉「私たちともに再び始めよう」の下、連帯と希望をつなぎ、あきらめず、私たちの手で真の解放を作っていく。金学順さんの「しっかりしなさい」という言葉を胸に刻んで。

お話を続く対談形式のトークでも、お二人の熱い思いが行き交いました。

集会の後、梅田までデモをして、「慰安婦」問題の解決を街頭でも訴えました。いつになく若者の参加が多かつたこともうれしく、意義深いメモリアル・デーのイベントになりました。

(norikoma)

## 第5回 8・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デー アピール

8月14日は、日本軍「慰安婦」メモリアル・デーです。1991年のこの日、韓国で金学順さんが「私は日本軍によって『慰安婦』にされた」と名乗り出ました。日本政府が、「あれは民間業者が連れ歩いたものだ」という無責任な答弁をしたことをニュースで聞き、憤りを禁じることができず、勇気をもって長い沈黙を破ったのです。闇の中に揺らめく小さな灯火のようなその証言は、たちまちアジア全体に拡がりました。朝鮮民主主義人民共和国、中国、台湾、フィリピン、インドネシア、東チモール等にもいた多数の日本軍性奴隸被害者たちが声をあげ始めました。彼女たちの勇気ある証言によって、戦後50年近くも歴史の中に埋もれていた事実が明るみに出されたのです。

しかし、それから26年間、日本政府は真剣にこの問題に向き合っていませんでした。「解決済み」と語る一方、被害者の声を聞こうともせず、1990年代の「女性のためのアジア平和国民基金」、2015年12月28日の日韓「合意」でお金渡し、被害者たちの口封じをしようとしたのです。

すでに、2014年6月、各国の被害者と支援者は、次のことを日本政府に提言し、実現を求めています。

- 一、被害事実の認定と真相究明
- 二、被害者に対する心からの謝罪と、その証しである法的賠償
- 三、二度とこのようなことが起こらないために記憶の継承と歴史教育

国際社会も、日本政府がこの問題と誠実に向き合うことを求め続けており、日韓「合意」については、被害者中心アプローチを十分に採用していない等の問題点を指摘しています。今年の5月、韓国では市民の闘いにより、「日韓『合意』は無効」を公約とする新しい政権が誕生し、早速「合意」の検証に取り組んでいます。私たちは、日本政府がこれらの声を謙虚に聞き入れることを、強く求めます。

26年前、金学順さんが最初に灯したその光は、過去ばかりでなく、現在の社会の片隅をも照らし出しています。さまざまな形での性暴力に苦しむ女性たちを力づけ、立ち上がらせました。「慰安婦」被害者たちは、「『慰安婦』問題の解決なしには、現代の性暴力問題も解決しない」と語っています。女性への性暴力が人権問題であり、人道に対する犯罪であることは、今や国連をはじめ世界の常識です。

今年の8・14 日本軍「慰安婦」メモリアル・デーも、「慰安婦」問題の解決と女性への性暴力の根絶をめざし、韓国、フィリピン、台湾、米国、ドイツ等、世界の各地をはじめ、札幌、富山、東京、名古屋、大阪、京都、広島、福山、北九州等で、取り組みが進められます。

私たちは、加害国の市民として、早期に解決が実現するよう闘います。そして、被害者たちの願いである「戦争のない平和な世界」を実現するため、被害者とともに努力を続けていきます。

2017年8月14日

日本軍「慰安婦」問題解決全国行動 共同代表 梁澄子 柴洋子

## 4/21 ピルマに連れて行かれた日本軍「慰安婦」文玉珠さんの足跡をたどって～講演・森川万智子さん



中国、ビルマで「慰安婦」だった文玉珠さんの聞き取りをし、ビルマで調査をした森川万智子さんを総合生涯学習センターにお招きしまし、お話をうかがいました。

戦時中に軍事郵便預金をしていた文さんと、日本に招待した市民団体に郵便局預金課で働いていたことがある森川万智子さんとの偶然の出会いがあり、森川さんはその預金の払い出しのため尽力したいと奔走されたそうです。しかし、その預金のために文さんは「将校よりも高い収入を得ていた」というバッシングを受け、今でも関西ネットの水曜集会を妨害する右翼はそれを執拗に聞いてきます。不当なバッシングを晴らすために森川さんはビルマに15カ月間も滞在して検証の取材をされ、元日本兵やビルマでの映像を記録しています。忘れられない体験を

聞き取り、被害者に「慰安婦」の証拠を出せという人たちに被害者になり替わって記憶を差し示しているのです。

名乗り出で間もない文さんは、同行した挺対協の金信実さんに「爆発したように語りかけていた」そうです。話することで文さんの心の傷が癒やされていくプロセスを目の当たりにして感動したという森川さん。その情景は、折しも『世界』にイ・ナヨンさんが連載した90年代当時の挺対協の聞き取り作業と重なりました。被害者の辛い体験をただ聞くだけでなく、そのトラウマを理解し、アプローチの側面を見極めながら記録していく作業が、聞き取る人と被害者の交流の中で行われ、深まっていったことに深い感慨を覚えます。森川さんは何度も文さんの家に通い、何度も確認して記録し、文さんに「どうしてあんたは私の気持ちがこんなにわかるの」と言われたそうです。私は初めて森川さんとお会いしましたが、誠実で丁寧に話される森川さんが「慰安婦」被害者・文さんの心を開き、書き記した「文玉珠さん」が私たちに後世に伝わると思います。

(rengyou)

## 6/10 忘れられない体験にこそ真実がある 沖縄戦から72年 上映会とお話

沖縄出身の画家、正子・R・サマーズさんの生涯を描き、2016年度ギャラクシー賞を獲得したドキュメンタリー上映会を、制作者である原義和さんのご厚意により、クレオ大阪中央にて開催。70人が参加しました。

正子さんは貧しさからわずか4歳で那覇の辻遊郭に売られました。利発で踊りなどもすぐに覚えた正子さんは、アンマー（抱え親の女性）に可愛がられて育ったものの、1944年16歳で初めて客を取るように言われた時には、逆らうとアンマーから暴力をふるわれ、泣く泣く従うしかありませんでした。程なく戦況の悪化により、辻遊郭の女性たちはすべて軍と一緒に行動するよう命じられます。正子さんたちは軍と共に浦添に移動し、翌年には首里城下の32軍司令部壕に入ります。正子さんは、浦添で、自分は給仕をするだけで済んだものの、年上の数十人の女性たちは、毎日、列を作つて順番を待つ兵士たちの性の相手をしなければならなかつたと語ります。また、首里城下の壕内にも20人ほどの若い女性がいたと証言。壕内に「慰安婦」とされた女性たちがいたことを示す貴

重な証言です。

戦後、米兵と結婚してアメリカに渡った正子さんは、40歳を過ぎて絵の才能を開花させます。アリゾナ州ユマの大地や沖縄の海を描いた絵の展覧会が2016年10月に那覇で開催されましたが、癌に冒されていた正子さんは、開催を待ちきれずに9月に世を去られました。

ドキュメンタリー上映後、新聞「うずみ火」記者の栗原佳子さんが、2012年、司令部壕説明板から「慰安婦」と「住民虐殺」の記述が削除された歴史改ざんの出来事について、現地での取材に基づいて説明してくださいました。

今年の夏、正子さんの手記の日本語訳が、原義和さんのご努力により出版されました。正子さんは、過去を恥ずかしく思う気持ちから、何度も書くのをやめようかと思ったそうです。それでも書き続けられたのは、歴史の真実が正しく後生に伝わることを正子さんも願っておられたからこそではないでしょうか。

(nao)

## 日韓学生青年交流ツアー参加者報告

# 未来への扉をたたこう！



9月10日～14日の4泊5日、ソウルにて、「日本に住む学生そして在日青年たちに、韓国での（若者たちの）取り組みを知ってもらおう。そして日韓の若い世代が交流する事で平和な未来を切り開こう」という趣旨で、日韓学生青年交流ツアーが開催されました。

私の日韓青年学生交流ツアーに参加した率直な感想は、韓国の学生の意識の高さです。これは一昨年参加したときにも感じたことです。自主的に運動を起こし問題解決にむけて声を上げる。そしてそれをどこか楽しそう取り組んでいる韓国の若者の姿に、驚かされました。

今回、日本からは、日本で「慰安婦」問題に取り組んでいる人、自分のルーツを学ぶなかでこの問題を知った人、大学のゼミで勉強し興味を持った人と、様々な考えを持った学生・青年が参加しました。

ツアーの中でも特に印象的だったのは、平和のウリチブで被害者ハルモニの話を直接聞くことができたことです。

ハルモニは、「自分が生きているうちにこの問題が解決する事を強く望む。未来世代に残す問題ではない。だけど、こういった歴史を事実を忘れないでほしい。同じ過ちは繰り返してはいけない。戦争をしてはいけない！」と、強く訴えていました。

想像を越える苦痛を味わい、それでも強く生きてきたハルモニだからこそ言える温かく優しい言葉に、涙を浮かべる学生も。。。

感想会では、「ハルモニの言葉に心を打たれ日本に帰って自分に何が出来るか考えたい！」と言った声もあり、とても有意義な交流となりました。

そしてツアー最大の目的ともいえる青年学生交流の場として、日韓在日学生討論会が、4日目の夜に開催されました。

日本軍「慰安婦」問題解決全国行動共同代表の梁澄子さんの講演から始まり、韓国の大学生・日本の大学生・在日の大学生の代表者が、それぞれの視点からみた「慰安婦」問題とその取り組み方などについて発表。その後グループに分かれてのディスカッションを行い活発な意見交換が行われました。

考え方や意見の違いはもちろんある中で、お互いの立場を認識しどうすればお互いが歩み寄れるのかを考えられる、非常に意義深い討論会でした。

最終日。挺対協事務所での感想会では、「日本人として恥ずかしい」「強く責められてるようで心が痛い」「もっとこの問題を知りたい」など、参加者から様々な意見が出ました。

最後に挺対協事務局長の梁路子さんは、「ツアーに来て感じたことを心に残してくれると嬉しい。けれど『日本で何かしないといけない！』と、無理に考えなくていい。思いがあれば、近くにいる人に伝わる。そして、若者らしい広がりを見せてほしい」と締めくくられました。

(sanghyon)



# 米サンフランシスコ市に「慰安婦」記念碑が建つ！

## ～「姉妹都市解消」をたてに妨害し続ける吉村大阪市長に抗議の声を～

今から2年前、サンフランシスコ（以下SF）で、市民らを中心に日系、韓国系、中国系など様々な立場の人々が手を取り合い、歴史を記憶し、日本軍「慰安婦」問題の解決と女性への暴力根絶をめざそうと行動を起こしました。『慰安婦』正義連帯の始まりです。

そして2015年9月22日、SF市議会で市民による「慰安婦」記念碑の設置が全会一致で決議されました。決して平たんな道のりではありませんでした。決議の直前、韓国から李容洙ハルモニを迎えての公聴会では、アメリカと日本から100名もの右派グループが駆けつけて反論、ハルモニに対する「売春婦」「うそつき」などの暴言も飛び交いました。さらに、SF市と姉妹都市の橋下前大阪市長も、「慰安婦はどこの国でもあった」「なぜ日本だけ言われるのか」などとする長文の書簡を送ったのです。私たちは直ちに橋下市長に抗議するとともに、『慰安婦』正義連帯と連携し、日本の市民の声をSF市議会議員に送ろうと賛同メッセージを集めました。

決議からちょうど2年目となる今年9月22日、SF市議会はこの日を「慰安婦の日」とする決議案を全会一致で採択しました。同日、市内のセント・メリーズ公園では「慰安婦」記念碑の除幕式が行われました。碑は、中国・韓国・フィリピンの「慰安婦」被害少女たちが背中合わせに立って互いに手を握り合う姿を少し離れてハルモニ 金学順さんが見守っているというもので、アメリカ人作家によります。除幕式には李容洙ハルモニやマイク・ホンダさんも参加しました。

記念碑が立つ公園は市に移譲され、碑もまた公有化されることが決まっていましたが、これに再び待ったをかけたのが吉村大阪市長でした。吉村市長は今年2月、像のデザインと碑文が発表された時も、これに遺憾と懸念を表明し、リーSF市長宛てに「日本政府の見解と違う」「姉妹都市関係を見直す」との公開書簡を送っています。私たちは直ちに市役所を訪れて抗議文を提出し、抗議しました。リー市長は吉村市長に対する書簡で、「記念碑の目的は、被害者の女性たちを尊敬し、すべての人身売買

の問題に関して一般社会を教育することにある」「選挙で選ばれた公務員である市長として、コミュニティーに応えることは私の義務」と述べ、姉妹都市の継続を求めました。

さらに吉村市長は9月22日の除幕式からまもなく、またもやリー市長に公開書簡を送り、すでに設置されている『慰安婦』碑を、「市として公用化するのであれば姉妹都市は見直さざるを得ない」と述べたことが分かりました。姉妹都市解消をタテに、市民の求めに応じた議会の決定事項を覆すよう迫る吉村市長の恥すべき行為に対し、10月13日、私たちは59団体の賛同を得た抗議文を大阪市に提出しました。

さらに10日後の23日、姉妹都市60周年を記念してSFより代表団が大阪市を表敬訪問しましたが、なんと、この場でも吉村市長は再びリー市長宛て公開書簡を伝達し、碑が公有化されれば「姉妹都市は終了する」とくぎを刺したのです。

一方、SFにおいて山田淳総領事も、記念碑は一方的な証拠をもとに先入観に基づいた歴史を主張しているとして、被害者の証言や長年にわたる研究者や市民の調査・研究の成果を無視し否定する発言を繰り返し、日系社会に分断を生じさせています。

「慰安婦」記念碑の公有化は、SF市議会予算委員会などを経て10月末の本会議で最終決定されます。私たちはこれに向け、SF市長と市議会議員に対する要望書を書き、市民の賛同を募ったところ、数日の間に全国から176筆の賛同と手紙やメッセージが届きました。26日の予算委員会でこの要望書が紹介され、議員らからは「日本の市民の声が私たちをサポートしてくれたことに励まされた」「政治的にもインパクトがあった」との感謝の言葉が返ってきてています。

この間の取り組みに賛同の声を寄せてくださったみなさまにあらためて感謝するとともに、今後歴史を記憶し、平和と女性の人権が尊重される社会をともにめざしていきましょう。  
(P)



吉村洋文 大阪市長

## サンフランシスコ市への「慰安婦」記念碑設置圧力を直ちに中止するよう求めます

吉村大阪市長は9月29日、姉妹都市であるサンフランシスコ（以下、SF）市長あてに公開書簡を送付し、9月22日にSF市民によって設置された日本軍「慰安婦」記念碑を市として公認しないよう求め、それが受け入れられなければ姉妹都市を解消せざるを得ないと迫ったことが明らかになっています。

2013年に、当時の橋下大阪市長が「慰安婦制度は必要だった」などと発言したことに対し、SF市議会が非難決議を全会一致で採択するということがありました。その後も、歴史的事実から目を背け、被害者を侮辱する発言を繰り返す橋下市長が国際的にも非難を浴びるなか、予定していたSF市への視察を断られる事態に発展したことは、吉村市長もよくご存じのはずです。

SF市議会で「慰安婦」記念碑の設置が満場一致で可決されたのは2015年9月22日のことでした。日系・韓国系・中国系を含む現地市民らが、過去の過ちを記憶し、人身売買や女性への暴力に反対するために市内に設置を求めていたものです。

ところが、吉村市長も今年2月と3月に、エドワイン・リーSF市長宛に書簡を送り、碑の設置を中止させるよう求めました。これに対しSF市長は、「わが市には、公的や民間によって建てられた多くの記念碑がある。『慰安婦』の碑は民間のプロジェクトが先導して進めたものだが、姉妹都市関係を壊そうと意図したものではない」「碑文の文言は事実で、記念碑の真の目的は被害者の名誉、市民の教育のため」と書簡で答えました。

SF市長として市民の意思や行為を尊重し、歴史の事実を踏まえ、人権尊重の理念に従い、当然の対応をしていることが伝わってきます。それにも関わらず、吉村市長は9月22日、SF市民らの手で「記念碑」除幕式が行われると、再度書簡を送り、「記念碑を市として認める場合は、姉妹都市を解消する」と恥ずかしげもなく抗議したのです。

これに対し、エドワイン・リー市長は10月2日付書簡で、「大きな落胆を覚える」「公職にあるものとして、たとえ批判にさらされても地域に対して応えていくことが責務」「過去ではなく、未来を見るべき」と返答してきたことが報道で伝えられました。これを受けてもなお、吉村市長は会見で「（碑文の内容が）日本政府の見解と違う」「姉妹都市関係を根本から見直さざるを得ない」と発言しています。このような言動は、公職にある者として歴史に向き合う時に、また、国際関係を進める時にとるべき態度ではないことは明らかです。ダイバーシティ大阪をめざす多くの市民の支持も得られるものではありません。

おりしも今年はSF市との姉妹都市提携から60周年であり、今月にはSF市から訪問団を迎えて記念行事を行う予定もあります。吉村市長は書簡で「このような動きが現地コミュニティーに分断を持ち込み、姉妹都市交流にネガティブな影響を及ぼす可能性がある」ことを心配しているとのことですが、こうした憂慮を引き起こしているのはまさに市長自身です。

歴史の事実を否定し、女性の人権を蔑ろにするこうした考え方の背景には「日韓合意」以降の日本社会に蔓延する「慰安婦」問題は解決したにもかかわらず、韓国社会と政府が蒸し返しているとの決めつけがあります。国際社会において「慰安婦」問題は未解決であるばかりか、現在進行形の女性に対する暴力にほかなりません。

大阪市長としてこの間の対応を反省し、再びこのような恥ずべき行為を行わないこと、今後歴史認識をあらため、女性の人権が守られる社会の構築のために努力するよう強く求めます。

2017年10月13日

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

# 関西の水曜集会へ行こう！



## 水曜集会は以下の日程です

梅田・ヨドバシカメラ前	毎月第1水曜日 19:00~
阪神間	毎月第2水曜日 18:30~
神戸市内	毎月第3水曜日 18:30~



## 会計報告と活動協力金のおねがい

昨年7月28日にニュースレターを発行して以後、皆様からお寄せいただいた活動協力金は462,500円にものぼります。

ありがとうございました。

関西ネットでは、今年に入って、本号でご報告している集会に加えて、7月の水曜集会前後には、韓国から平和ナビの若者たちを迎えて、日本人や在日の若者との交流を支援する活動にも取り組みました。現在のこの国の状況では、そのような立場が異なる若者たちが出会い、交流できる機会も非常に少なくなっています。大変有意義で、貴重な経験をしてもらうことができました。

皆様方の支えがあったからこそできた活動でした。

今、歴史修正主義がはびこり、とりわけ「慰安婦」

問題は逆風にさらされている状況です。

被害者たちは、「二度とこのようなことを繰り返さないように」と訴えています。私たちも、より多彩な企画を準備して、解決の日を早く迎えることができるよう取り組む予定です。とりわけ若者たちに歴史の真実を伝え、記憶の継承をしていくことも大きな課題です。また、女性の人権、現代の性暴力の視点からも「慰安婦」問題を多くの人々とともに考えていきたいと思っています。

引き続き、活動のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

これからも、毎月第一水曜日の水曜集会を続けます。ぜひ、一緒にご参加ください。

選挙結果は大変厳しいものでしたが、あきらめず、心くじけず、力を合わせて進みましょう。